



食 **ギョウジャニンニク** ユリ科

低地の林内、山地の日当たりのよい傾斜地に生える。  
強烈なニンニク臭があり、茎は赤紫色を帯びる。  
葉はイヌサフラン（毒）やスズラン（毒）に似た形  
だが大きくて光沢がある。



## 毒 イヌサフラン ユリ科

野山では見られないが、コルチカムという名で園芸用に球根が販売されている。

光沢のある長い葉は夏には枯れ、秋にクロッカスに似た薄紫の花が咲く。

**有毒部位：全草**

**有毒成分：コルヒチン**

**中毒症状：嘔吐、腹痛、下痢、けいれん、  
呼吸のみだれ。死亡することもある。**

※札幌市内では、平成25年に中毒事例が、平成27年には死亡事例がある。道内では、他にも平成29年から令和4年9月までの期間に5件の誤食による死亡事例があり、葉をギョウジャニンニクと間違うか、球根をミョウガ等と誤認して食べる場合が多い。